

〔特定非営利活動法人 島根県障がい者就労事業振興センター他〕（島根県松江市）

WEBサイト：<http://shimane-noufuku.net/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 島根県は、平成24年10月から、県内の障害福祉サービス事業所の利用者の工賃向上を図る目的で、県の外郭団体である公益財団法人しまね農業振興公社に対し、「農福連携事業」を依頼。平成27年度からは、依頼先がNPO法人島根県障がい者就労事業振興センターに変更され、県とセンターが協力して、事業を継続。
- センターでは、配属されたコーディネーターが、農業者と障害福祉サービス事業所のマッチングを実施。また、実際に農作業を行う前に、事業所職員が模擬演習をするほか、農作業未経験の事業所が経験のある事業所から教わる合同演習などの仕組みを構築。
- 農福連携ポータルサイトを開設し、障害者による農作業の様子を動画で公開するなど、わかりやすく情報発信。

## 取組の内容

- ◆ 農福連携コーディネーター（県の普及指導員OB）2名を配置し、農作業請負や商品開発などについて、農業者と障害福祉サービス事業所をマッチング。
- ◆ かつて県の研究圃場で行った実践調査によって得られた手法を生かし、実際に農作業を行う前に、事業所職員が農業者のほ場や事業所内で模擬演習をするほか、農作業未経験の事業所が経験のある事業所から教わる合同演習を実施。
- ◆ 農業を行う事業所には、技術指導者である「農福連携サポーター」が、事業所職員へ農業知識向上・技術習得を指導。
- ◆ 農福連携ポータルサイトを開設し、障がい者による農作業の様子をyoutube動画で公開。

## 取組の効果

- ◆ 事業が浸透し、マッチング件数は、平成25年度の3件から令和元年度には延べ45件へと増加。
- ◆ サポーターは、令和元年度には15名が登録され、延指導回数は15事業所で143回。
- ◆ 事業所が確かな技術を身につけた結果、シャインマスカットの管理作業を委託した2名の生産者が、2年連続で県品評会の最高賞を受賞。また、販売収入の増加や、障がい者が、摘粒作業時にうどんこ病を発見し、速やかな防除につながるなど、農業経営面でも効果。
- ◆ 事業所の農業部門の売上総額は、令和元年度には、約3億3,000万円（売上推計の13.7%）まで拡大。

県では、平成28年度からは、**県立農林大学校**において、事業所職員向けに、農業技術の習得のための指導者養成研修を実施。

農福連携の浸透により作業委託希望が増え、受託事業所が不足する状況。

事業所内での模擬演習



事業所の合同演習



Youtube動画の公開



# 障害者との交流活動を契機として農福連携の取組が徐々に発展

〔有限会社 岡山県農商〕（岡山県岡山市）

WEBサイト：<http://kennosho.com/>

視察受入れ：可

④グループ内連携型（農業側から参入）

報道機関受入れ：可

- 岡山県岡山市にある有限会社岡山県農商は、農業法人化した平成11年に、知的障害者の雇用を開始。その後、同社は、平成20年にNPO法人岡山自立支援センターを設立。その後、就労継続支援A型事業所「ももっ子おかやま」など複数の障害福祉サービス事業所を相次いで開設。現在、自社施設の利用者約70名を施設外就労として受け入れ、青ネギ・トマトの栽培、加工等を通年で行う。
- 平成元年に農業を開始した当初は、家族経営で青ネギ栽培を行っていたが、平成9年に、近くの障害福祉サービス事業所の障害者や住民との交流を深めることを目的として、サツマイモの栽培と焼き芋会を開始。地域交流活動で障害者と接点を持ったことをきっかけとして、農福連携を開始し、その後のステップアップにつながった。

## 取組の内容

- ◆ 約10haの農地で青ネギとミニトマトを栽培するほか、カットネギ・乾燥ネギの加工も実施。学校給食用途でも販売。
- ◆ 平成9年から、サツマイモの栽培と焼き芋会を通じて、近隣の障害福祉サービス事業所の障害者や地域住民との交流を実施。
- ◆ 障害者は、自社ブランド「桃太郎ネギ」と「きびトマト」の収穫・調製作業、カットネギの製造を実施。
- ◆ 障害者が混乱しないよう、単純作業を多数創出。

青ねぎの洗浄ライン作業



カットねぎの袋詰め作業



ミニトマトの収穫作業



## 取組の効果

- ◆ 地域交流活動で障害者との接点を持ち、農福連携を開始。まずは、障害者の直接雇用を開始した後、自社で障害福祉サービス事業所を相次いで設立することで障害者という働き手を確保するなど、取組がステップアップした。
- ◆ 働く障害者の数は、平成21年には10人だったが、平成31年には74人と、10年間で7倍以上に拡大。
- ◆ 加工・販売による6次産業化と障害者への適切な作業の割付けにより、令和元年の売上高は約1億8,000万円と、10年間で約1.8倍に増加。
- ◆ 岡山県立支援学校からの職場実習を受け入れており、その際には、繰り返し根気強く伝えることで仕事を習得させ、正式雇用につなげている。

WEBサイト：<https://www.facebook.com/pages/category/Local-Business/%E3%81%8A%E3%81%8A%E3%82%82%E3%82%8A%E8%BE%B2%E5%9C%92-674397879248071/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 岡山県岡山市にある株式会社おおもり農園は、平成14年の就農以来、イチゴ栽培を実施している。平成23年には、NPO法人杜の家及び就労継続支援A型事業所「杜の家ファーム」を設立。現在、障害者約20名が施設外就労し、イチゴ栽培等を行う。
- イチゴは年間作業時間が特に長い作物であり、夫婦二人の作業では限界があったが、障害者5～6名の労働力を組み合わせることで、夫婦で1日300パックだった出荷量は、600パック以上へ増加。
- おおもり農園では、障害者の働きによって経営に余裕が生まれ、高齢で離農する農業者からハウスを引き継ぎ、経営面積は約35aまで増加。

### 取組の内容

- ◆ 就労継続支援A型事業所を設立して、事業所に対し、イチゴ栽培を安定的に依頼。
- ◆ イチゴの無育苗栽培による育苗管理の簡素化の実施。
- ◆ 収穫から出荷までの作業では、作業工程ごとの完成形を示した写真を多用し、障害者が視覚的に理解できるよう配慮。



### 取組の効果

- ◆ イチゴは、年間作業時間が特に長い作物であるが、自ら障害福祉サービス事業所を設立することで、作業者を安定的に確保できるようになり、作業負担が軽減。夫婦で1日300パックだった出荷量は、600パック以上へ増加。
- ◆ 経営に余裕が生まれた結果、離農した農業者からハウスを引き継ぎ、経営面積が約35aまで増加。
- ◆ 作業指示の見える化によって、異常発生時の問題点がわかり、指示が障害者に的確に伝わるようになった。
- ◆ イチゴ栽培の安定的な請負とその他の施設外就労との組合せにより、平成30年度の平均月額工賃は約8万9千円と、県内A型平均を1万円以上上回る。

イチゴのパック詰め



イチゴの選果



作業工程の視覚化



〔運営法人：社会福祉法人 E.G.F〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「のんきな農場」他〕（山口県萩市）

WEBサイト：<http://e-g-f.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 山口県萩市にある社会福祉法人E.G.Fは、平成20年の設立以来、複数の障害福祉サービス事業所を運営している。現在、知的障害者を中心とする70名が、自社の畑のほか、集落営農組織への施設外就労により、通年で農作業やジャム製造等の6次産業化に取り組んでいる。
- 平成26年から、参加農業者120戸・水田面積111haにも及び大規模な集落営農組織から農作業を請け負うことで、安定的に仕事を確保。また、作業量は毎年増加しており、地域農業における人手不足の解消に貢献。
- 障害者が共同生活するグループホームを設置し、他の施設で引き受けられづらい障害者を受入れ。夜間の生活リズムを確立するとともに、日中の農作業と合わさって、後天的な精神障害が回復した利用者もいる。

## 取組の内容

- ◆ 約5haの農地において、約40種類の野菜を生産するほか、栗園2haもある。また、ハウス50棟において、イチゴ、メロン、ホウレンソウ等も栽培。さらに、ジャム等の食品加工も実施。
- ◆ 平成26年から、隣接する集落営農組織「農事組合法人福の里」から作業請負開始。福の里は、参加農業者120戸・水田面積111haという大規模な組織。障害者は、田植え時の苗箱運び、肥料散布、草取り、収穫した稲のはさがけ、乾燥調製作業を実施。
- ◆ 平成28年には、阿武町に進出し、野菜のカット工場を建設。
- ◆ 障害者が共同生活するグループホーム14棟を設置し、障害者58名を受入れ。

## 取組の効果

- ◆ 自社圃場における農産物関連の販売額は、令和元年では3,000万円と高額。また、カット野菜の販売については、令和元年度には、販売量約30トで2,000万円を売り上げた。
- ◆ 大規模な集落営農組織から農作業を請け負うことで、安定的に仕事を確保。また、作業量は毎年増加しており、地域農業における人手不足の解消に貢献。
- ◆ 農業と加工の取組を評価され、平成26年には、六次産業化の総合化事業計画が認定されるとともに、平成27年には阿武町から認定農業者として認定。
- ◆ グループホームにおいて、生活リズムを確立することで、後天的な精神障害が回復した利用者もいる。

利用者



野菜カット工場



稲のはさがけ



〔特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会〕（香川県高松市）

WEBサイト：<http://www.yorokobi-selp.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 香川県は、NPO法人香川県社会就労センター協議会に対し、共同受注窓口に係る業務を委託し、その中で、平成23年度から、特に、農業者と障害福祉サービス事業所のマッチングを開始。
- 農福連携の専任コーディネーターを1名配置。コーディネーターは、スケジュール調整や農作業の請負報酬の交渉など、当事者に代わって多岐に渡る業務を実施。
- 全国でも珍しく、センター自体が、農業者及び障害福祉サービス事業所とそれぞれ契約を締結。両者が直接契約を締結しないことで、作業量や時期に応じて、複数の取組主体を柔軟にマッチングしている。
- 令和元年度から農作業の現場で指導助言等を行う人材を設置し、現場での指導・助言や実技協力を実施している。

## 取組の内容

- ◆ 平成23年度から、農福連携の専任コーディネーター（現在は県内市役所OB）を配置して、農業者と障害福祉サービス事業所のマッチングを開始。これまで、ニンニクの種子割り・定植・マルチ芽出し・収穫、ネギ畑の除草、調整作業等を仲介。
- ◆ コーディネーターは、農業者と障害福祉サービス事業所に一斉にスケジュールを示して調整。
- ◆ 農作業をしてほしい農業者と、農作業をしたい障害福祉サービス事業所が、それぞれ、センターと契約を締結。



## 取組の効果

- ◆ 現在、センターには県内の就労継続支援B型事業所118事業所中93事業所が加盟し、このうち37事業所が農作業に参加。また、農作業への参加延べ事業所数は、平成27年度の190事業所から、令和元年度の269事業所と大幅増。さらに、同年度の延べ作業人数は約1万5,000人にも及んでおり、農福連携のマッチングシステムとして、大きな成果を上げている。
- ◆ 農業者と事業所が直接契約を締結しないため、作業量や時期に応じて、複数の取組主体を柔軟にマッチング。
- ◆ 必要な作業をできる限りマッチングしたことにより、参加した農業者からセンターに支払われる報酬総額は、平成23年度の1,808千円から、令和元年度の15,321千円と、8年間で約8.4倍に増加した。

ニンニクの収穫



コーディネーターによるスケジュール提示

・農業者用		・施設用	
作業日	作業内容	作業日	作業内容
10/1	種子割り	10/1	定植
10/2	マルチ	10/2	マルチ
10/3	芽出し	10/3	芽出し
10/4	除草	10/4	除草
10/5	調整	10/5	調整
10/6	収穫	10/6	収穫

共同受注農作業システム

